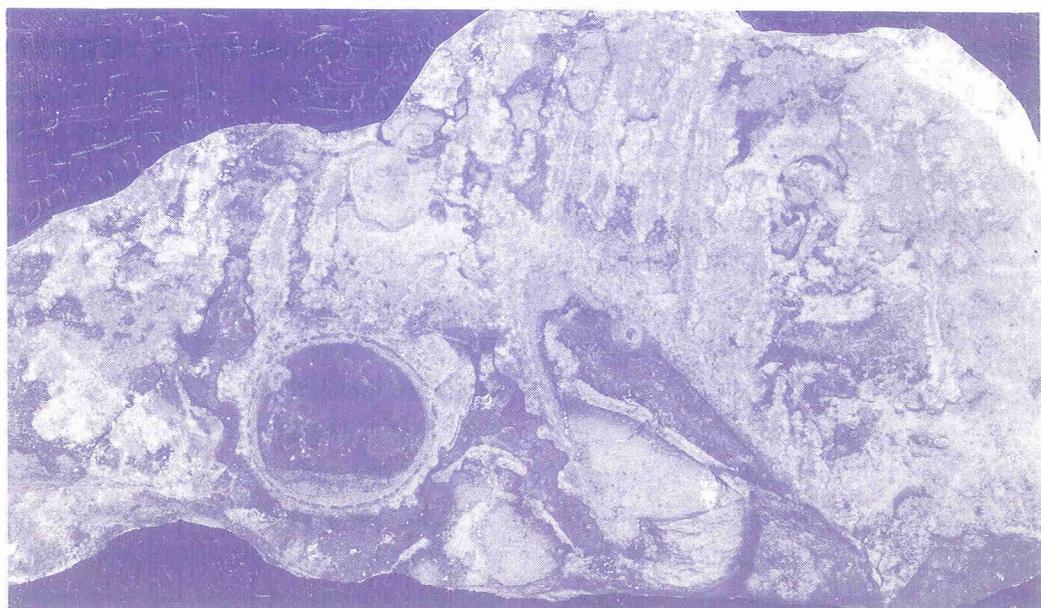
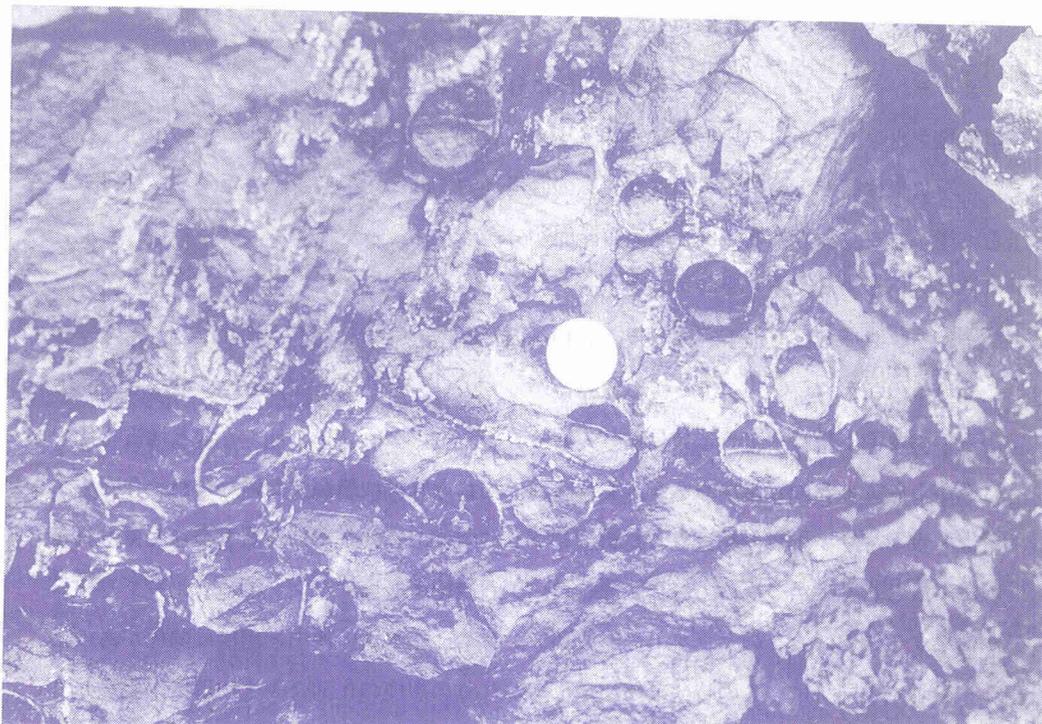


東京大学理学部

廣報



表紙の説明

石炭紀のチューブワーム

カナダ、ニューファウンドランド島西部に分布する石炭紀前期（約3億3千万年前）の炭酸塩マウンド中からチューブワーム（Vestimentiferan tube worms）の化石が発見された。写真上は露頭での産状（中央コインの直径は約2 cm），下は研磨したスラブ試料である。チューブワームの横断面と斜め縦断面が分かる。チューブワームの壁に付着して上方へ伸びているのはブライオゾア。

チューブワームは直径1～3 cm長さ数10cmの管状の形態をした生物で、1977年に水深約2,600 mのガラパゴス・リフトで初めて見つかった以来、熱水噴出孔付近だけでなく、海底からの冷水湧出帯でも次々に発見されている。オマーン・オフィオライトなど地質時代の岩石からも2・3の報告があるが、それらはいずれも保存状態が大変悪かった。今回ニューファウンドランド島で発見されたチューブワームは、これまでに地層中から発見されたなかで最も古く、かつ極めて保存状態が良い。石炭紀炭酸塩マウンド中にチューブワームが密集することは、このマウンドの形成がメタンや硫化水素の湧出と密接に関係があったことを示すと同時に、この時代、浅海域にもかなりの規模の化学合成生物群集が生息していたことを意味し、地質学的にも生物学的にも興味深い。

松本 良（地質）